

Robert Webster: 'We ignore bird flu at our peril' The Guardian (英国) ロバート・ウェブスター：世界は鳥インフルエンザの危険性を命がけで無視している 2011/9/18

米国の聖ユダ小児研究病院のインフルエンザ研究者の頂点に立つロバート・ウェブスター博士へのインタビューを交えた、鳥インフルエンザの危険性に関するレビュー。

国連（F A O）が新たな警告を発すると共に、ハリウッドがパンデミック映画を作製して、鳥インフルエンザが再びニュースとなる機会が増えている。

我々は 50 年前に世界で初めてパンデミックを警告し、そして現在再び警告している人物に会い、色々と話を聞いた。

スティーブン・ソーダーバーグ監督によるパンデミックスリラー” *Contagion*” で、最終場面まで、パンデミックを起こしている病原体の正体は明らかにされない。

それは豚肉由来か、それとも C D C の高官がいうように、全ては鳥由来なのか？

最終的にソーダーバーグ監督は、豚と鳥両者が病原体拡大に関与していることを匂わせ、病原体は鳥インフルエンザウイルスとニパウイルス(コウモリが介在するマレーシアの豚農場におけるウイルス感染症。人に感染すると脳炎を発症。[詳細](#)) のハイブリッドであることを示唆している。

映画上のシナリオであるが、この仮説は実際に脅威的事実として存在している。

ロバート・ウェブスター博士は以下のように語っている。

「私は未だ映画は見ていないが、鳥インフルエンザは潜在している現実的殺人的感染症である」同博士は世界の最も卓越した鳥インフルエンザに関する専門家であるが、オックスフォードからマルタ島まで相次ぐ会議に参加する過程でインタビューに応じてくれた。

「自然は人に感染すると 50%を死亡させるウイルスが存在している事を示しているが、世界は自己責任でそれを無視している」。

それは” 鳥インフルエンザの教皇” と呼ばれるウェブスター博士が 50 年前から警告してきたことである。当初は懐疑的に周辺から考えられていたが、最近では尊敬の念で信頼感が増している。ウェブスター教授の安眠を妨げるほどに気にかけているのは H5N1 ウイルスである。

H5N1 鳥インフルエンザは 1997 年に初めて人に感染し、16 人に感染して 6 人が死亡した。(記者：正しくは 18 人が感染)。

その後 2003 年にタイとベトナムの養鶏場で再流行し、さらにアジア中に広がった。

2005 年には中東から東欧へも広がった。

2009年にH1N1豚インフルエンザが流行し、WHOはパンデミック宣言した。

「この2009年のパンデミックは、我々にとって非常に幸運だった。自然はウイルスの中に人に対する致命的遺伝子を加えていなかった」

ウェブスター博士はそのようにコメントしている。

しかしながら博士は同時にH5N1の脅威は去っていないことを主張している。

むしろ最近の科学的データが正しければ、新規変異株、コード名”2.3.2”は中国とベトナムから中央アジア、東欧へ渡り鳥で運ばれている、と博士は説明する。

一方、H5N1のホットスポットであるエジプトでは、家きん飼育場で他の変異株が流行し、有意な数の感染死を人の間に起こしている。

博士によると、今月初めにオックスフォードの聖ヒルダ大学で行われた国際会議で、”H5N1鳥インフルエンザは渡り鳥によりユーラシア大陸全体に広がっている可能性があり、アメリカ大陸に入って来るのは時間の問題である”と語られたという。

今年79歳になるウェブスター博士は、ニュージーランドの農場で育ち、その後人生の半分を鳥インフルエンザの研究で費やしてきた。

米国メンフィスの聖ユダ小児研究病院の感染症部門で、世界で唯一の人獣インフルエンザ感染研究を主宰している。

無数の鶏卵を使用してワクチンの研究を行い、そして多くの専門家を育成してきた。

イタリアのパドヴァにある、世界動物保健機関の国立協力機関のカプア長官は次のようにウェブスター博士を評している。

「世界は博士に大きな借りがある。多くのことで彼はインフルエンザの父であり、また母でもある」

ウェブスター博士は中国やバングラデシュ、そしてインドネシアなどの鳥インフルエンザのホットスポットを訪れて調査に明け暮れてきた。

同博士は世界で最初に、水棲渡り鳥がインフルエンザウイルスの自然宿主であることを見いだしている。

中略

豚インフルエンザで約18000人が世界中で死亡したが、それは米国で毎年季節性インフルエンザで死亡する数の半数に過ぎなかった。

こうした事実はパンデミック・インフルエンザの脅威に対する懐疑的見方がこれまでになく高

くなっている。

「現在（米国の）政治家達は（鳥）インフルエンザに対して関心を抱いていないが、誰もそれを避難できない。誰も死なないからだ」、と同博士は言うが、続いて次の様にコメントしている。

「しかし、米国に鳥インフルエンザウイルスが入って来るならば、早急なるワクチン接種の必要性に社会は気づくことは間違いない」。

ウェブスター博士によると、それ(H5N1 がパンデミックになること)は時間の問題だという。2003 年以来 H5N1 ウイルスは世界で 565 人を発病させ、331 人を死に至らしめた。実に致死率は 60%に近い。

またそれは世界で 4 億羽以上の家きんを殺すか、殺処分に追い込み、200 億ドル以上の経済的損失を起している。

先月 FAO（国連食糧農業機関）は、6 歳のカンボジアの少女が鳥インフルエンザで死亡し、本年度同国で 8 人目の死者となった報告の後、世界に警戒体制の強化を促した。

同時に FAO は最近鳥インフルエンザが発生していなかった地域でも H5N1 ウイルスが、渡り鳥に運ばれて拡大してきていることを報告した（イスラエル、パレスチナ、ブルガリア、ルーマニア、ネパール、モンゴル）。

しかしながら FAO が最も警戒しているのは、中国とベトナムで拡大している変異株、2.3.2 で、渡り鳥でさらに拡大する可能性が高いとされる。

ウェブスター博士によると、2.3.2 変異株は未だ未熟であり、むしろエジプトの養鶏場で土着している 2.2.1 株の方が心配であり、既に今年に入ってから 32 人が発病し、12 人が死亡しているという。